【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成17年8月11日(2005.8.11)

【公開番号】特開2002-320069(P2002-320069A)
【公開日】平成14年10月31日(2002.10.31)
【出願番号】特願2002-13958(P2002-13958)
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０４Ｎ　1/028
　Ｇ０２Ｂ　7/28
　Ｈ０１Ｌ　27/148
　Ｈ０４Ｎ　5/335
【ＦＩ】
　Ｈ０４Ｎ　1/028　A
　Ｈ０４Ｎ　5/335　F
　Ｇ０２Ｂ　7/11　N
　Ｈ０１Ｌ　27/14　B

【手続補正書】
【提出日】平成17年1月20日(2005.1.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　光センサ・アレイに最初の露光を施すことと、
　前記光センサ・アレイ内にある、全ての光センサよりも少数の光センサを含む光センサ・ブロックからの電荷だけを電荷シフト・レジスタに転送することと、
　前記光センサ・アレイに２度目の露光を施すことと、
　前記光センサ・アレイ内にある前記光センサ・ブロックからの電荷だけを前記電荷シフト・レジスタに転送して、２回以上の露光による前記光センサ・ブロックからの電荷が電荷シフト・レジスタ上に多重化されることと、
を含むことを特徴とする走査方法。
【請求項２】
　電荷を電荷シフト・レジスタに転送することは、連続した光センサ・ブロックから電荷を転送することをさらに含むことを特徴とする請求項１に記載の走査方法。
【請求項３】
　電荷を電荷シフト・レジスタに転送することは、連続した光センサ・ブロック内で交互に光センサからの電荷を転送することをさらに含むことを特徴とする請求項１に記載の走査方法。
【請求項４】
　前記電荷シフト・レジスタ内において、通常より低いシフト・レートで電荷をシフトさせることをさらに含むことを特徴とする請求項１に記載の走査方法。
【請求項５】
　第１および第２の光センサ・アレイに露光を施すことと、
　前記第１の光センサ・アレイ内の連続した第１の光センサ・ブロックから電荷シフト・レジスタに電荷を転送することであって、前記第１のブロックは前記第１の光センサ・アレイ内の全ての光センサよりも少数の光センサを含み、前記第１のブロックからの電荷だ

けが転送されることと、
前記第２の光センサ・アレイ内にある連続した第２の光センサ・ブロックからの電荷だけを前記電荷シフト・レジスタに転送して、連続した２つ以上の光センサ・アレイのブロックからの電荷が前記電荷シフト・レジスタ上に多重化されるようにすることと、
を含むことを特徴とする走査方法。
【請求項６】
前記電荷シフト・レジスタ内において、通常より低いシフト・レートで電荷をシフトさせることをさらに含むことを特徴とする請求項５に記載の走査方法。
【請求項７】
光センサ・アレイ内の全ての光センサより少数の光センサを含む光センサ・ブロックからの電荷だけを電荷シフト・レジスタに転送することと、
前記電荷シフト・レジスタが前記光センサ・ブロックからの電荷だけで満たされるまで、前記電荷シフト・レジスタへの電荷の転送を繰り返すことと、
を含むことを特徴とする走査方法。
【請求項８】
前記電荷シフト・レジスタ内において、通常より低いシフト・レートで電荷をシフトさせることをさらに含むことを特徴とする請求項７に記載の走査方法。
【請求項９】
第１および第２の光センサ・アレイに露光を施すことと、
前記第１の光センサ・アレイ内の第１の光センサ・ブロックから電荷シフト・レジスタに、間に何も介在させることなく直接電荷を転送することであって、前記ブロックは全ての前記光センサよりも少数の光センサを含み、前記第１のブロックからの電荷だけが転送されることと、
前記電荷シフト・レジスタ内において、前記第１の光センサ・ブロックからの電荷をシフトすることと、
前記第２の光センサ・アレイ内にある第２の光センサ・ブロックからの電荷を、電荷をシフトする前に前記第１の光センサ・ブロックからの電荷によって予め占有されている電荷シフト・レジスタの段に転送して、２つ以上の光センサ・アレイのブロックからの電荷が前記電荷シフト・レジスタ上に多重化されるようにすることと、
を含むことを特徴とする走査方法。